

第7回 仙台市総合計画審議会議事録

日 時	平成22年11月24日（水） 18：30～20：30（会成立18:41～ ）
会 場	仙台市役所 2階 第一委員会室
出席委員	足立千佳子委員、石川建治委員、内田幸雄委員、江成敬次郎委員、大草芳江委員、大村虔一委員、岡本あき子委員、小野田泰明委員、佐竹久美子委員、鈴木由美委員、西大立目祥子委員、庭野賀津子委員、針生英一委員、増田聡委員、間庭洋委員、水野紀子委員、柳生聡子委員、柳井雅也委員〔18名〕
欠席委員	阿部一彦委員、阿部初子委員、大滝精一委員、菊地昭一委員、小松洋吉委員、菅井邦明委員、鈴木勇治委員、高野秀策委員、永井幸夫委員、西澤啓文委員、樋口稔夫委員、宮原育子委員〔12名〕
事 務 局	山内企画調整局長、大槻企画調整局次長、白川総合政策部参事、梅内総合計画課長、遠藤総合計画課主幹、柳津総合計画課主幹、堀田青葉区役所区民部長、吉岡宮城野区役所区民部参事、小野若林区役所副区長、古谷太白区役所区民部長、青柳泉区役所区民部長
議 事	1 開会 2 議事 (1) 仙台市基本構想・基本計画（中間案）の修正の方向について (2) その他 3 閉会
配付資料	1 基本構想・基本計画（中間案）の修正概要（案）

1 開会

大村虔一会長

お見えになっていない方がちらほらございますけれども、定刻でございますので、ただ今から第7回仙台市総合計画審議会を開催いたします。

最初に、本日の議事録署名委員の指名でございますけれども、あいうえお順でやっておりまして、前回、江成委員にお願いをいたしましたので、今回は大草委員にお願いいたします。

大草芳江委員

はい。

大村虔一会長

どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、続きまして議事に入る前に、定足数等の確認を行いたいと思います。事務局からのご報告をお願いいたします。

梅内総合計画課長

先週に引き続きまして、連続の開催になりまして大変恐縮でございます。ご出席ありがとうございます。

急遽^{きゅうきょ}本日になりましてご欠席のご連絡があり、また、遅れていらっしゃる方もおられると聞いております。現在15名出席ということでございまして、その遅れていらっしゃる皆様のほうから先に資料説明等を進めておいてほしいということでございましたので、先に進めさせていただきたいと存じます。（16:41に足立委員の到着により会議成立）

資料でございます。お座席に、座席表、新総合計画の策定作業マップ、本日の次第、資料一覧、そして資料1の冊子、前回までの資料をつづったファイルを置かせていただいております。過不足等ございませんでしょうか。事前に暫定版の資料を電子データ等でお送りしておりますが、本日の資料1が修正になってございますので、こちらの封筒の資料をお持ち帰りいただければと存じます。よろしくお願いいたします。

大村虔一会長

特別資料に問題がなければ進めたいと思います。

よろしゅうございますか。

2 議事

(1) 仙台市基本構想・基本計画（中間案）の修正の方向について

それでは、議事に入ります。

次第によりますと、本日の議事はその他を含めて二つでございます。

まず「仙台市基本構想・基本計画（中間案）の修正の方向について」でございます。中間案の修正概要（案）につきまして、前回皆様からいろいろご意見をいただいておりますが、それを受けて修正をし、あわせて、今回加筆部分があるということでございます。事務局から説明を受けたいと思います。

それでは、事務局お願いいたします。

梅内総合計画課長

それでは資料1に従いまして、ご説明をさせていただきます。

先週の審議会で委員の皆様からいただきましたご意見、また、パブリックコメントを含めまして市民意見をどのように反映させるかということで、庁内での検討で進んできた内容もございますので、そういった部分の加筆と修正を行ってございます。資料1に従いましてこちらをご説明させていただきます。

資料1の基本構想（中間案）の修正でございます。前回、内向きであるといったようなお話、また、世界とのつながり、あるいは城下町の歴史等の内容について、もうちょっと加筆が必要ではないかといったご意見があったところでございます。「仙台の未来へ」では、若干そういった部分を入れておりますけれども、主には次のページの方で対応したところでございます。

また、2の市民力の方で下線部がございます。こちらにつきましては、中間案の内容

と比べて市民力を発揮すべき主体の明示等を少し簡略化したところがございまして、そちらについて多様な市民力ということをはっきり明記すべきだというご意見がございましたので、それを加筆したものでございます。

2 ページ、3 ページをご覧ください。こちら主に「都市像」のところを修正してございます。「都市像」につきましては、副題のつながりが分かりにくいのではないかとといったご意見がございました。また、都市像の説明を副題でしようとするのではなくて、もう少し説明を増やして対応すべきではないかというご意見もあったところでございます。これらのご意見を反映すべく、副題につきましては、一部ちょっと冗長があった部分を切るなどして短くするとともに、各都市像のところで全て四つのまちの姿、将来を目指すまちの姿というものを記載してございます。

学びの都のところでは、「学びの場にあふれ、生涯にわたり楽しく学ぶことで市民力が広がり、一人ひとりの心の豊かさにつながるまち」ということで、学びと市民力の広がり、また、学びが様々な市民の力を生かすんだというような学びの重要性を強調すべきというご意見もございましたので、こういったものを各々の箇所につなげてございます。二番目のポツにつきましても、世界とのつながり、あるいは学都、学生が多い学都というだけではなくて、その知的資源をどういった形で活用するかといったご意見を入れたものでございます。子供や若者の学び、成長、それを支えるようなまち、また、歴史的、伝統といった前回あったご意見につきましては、反映しようと考えたものでございます。

支え合いのところでございますが、ここにつきましても、各々の高齢者が健やかに過ごせるまち、子育てをしっかりと支えていくまち、全ての人を大切にすると多様な価値観を認め合うまち、災害について多く意見がございましたので支え合いで対応していくまちといったイメージを記載しているものでございます。

潤いの都でございます。こちらにつきましても、低炭素のまちづくり、あるいはそれを支える公共交通、機能集約型の都市づくり、多様な生態系を守る杜の都の恵みを生かすまちづくり、里山、田園あるいは農林業の持つ多様な機能を都市の力に反映させるといったご意見を、こちらの方に反映しているものでございます。

四つ目、活力の都でございます。こちらにつきましても、産学官、都市の持っております学の力あるいは産業の力を創造につなげるまちづくり、東北あるいは発展の著しいアジアとの連携、こういったものを都市の姿に入れたものでございます。

続きまして、基本計画に関する修正でございます。5 ページをご覧ください。視点のところにつきまして、前回多く意見をいただいたものでございます。先程、都市像のところでも反映を目指して修正をいたしたところでございますが、今回「学び」を重点の一番目にあげているというようなことの意味合いにつきまして、こちらの方で視点を工夫したところでございます。これからの時代、都市、市民の皆様の知恵や力を集めて結集する、その力を発揮する、そのために様々な「学び」を生活に取り入れる仕組みをつくっていく、そのような場、プラットフォームをつくっていくということが重要と考え、「学び」を重点の1にしたというような視点で構成を直してございます。「支え合い」につきましては、こちらは前回の内容を少し簡素化といえますか、整理、統合いたしま

して短くしたものでございます。 のところ、こちらにつきましては、世界・東北との広域的な関係を、指摘のあった部分を加え修正したものでございます。市民力の部分、これからの本格的な成熟社会、人口減少、あるいは少子高齢化を支える都市づくりに向けて、市民力を広げ、つなげるといった形で整理を図ったものでございます。地域協働、自己変革のところもご指摘を受けて整理し、１ページの中にまとめるようにしたものでございます。

次の修正ポイント、７ページでございます。学びの部分でご意見を多数いただいたところでございます。先程申し上げましたように、視点のところ等で学びの重要性について書き込みを変更いたしましたので、こちらでは主に「（２）学都・仙台の資源を多面的に生かすまちづくり」の部分で修正を加えました。大学等の持っている資源をどのようにまちづくりに生かすか、市民に開かれた大学と、市民と交流する大学、あるいは大学同士の連携の強化、それを利用したコンベンション誘致ですとか、産学連携での産業の活性化、あるいは雇用の場の確保、そういったことを記載するように修正を図ってございます。

続きまして９ページでございます。支え合いの部分、こちらはちょっと修正箇所が余り出なかったんですけれども、子供たちの創造力、生きる力を育む遊び、体験といったことの充実、あるいはこの部分で少子高齢というときに支え合う市民として幅広い市民の連携・協力が必要であるというご指摘がございましたので、９ページ部分、あるいは１０ページのところ、下線部のところの記載を修正してございます。

次は１１ページの環境と調和した都市づくりでございます。「（１）低炭素都市づくりの推進」の部分につきましても、低炭素都市に向けてはもちろん市民ですとか、市民の皆様や経済活動、産業活動でのライフスタイル、ビジネススタイルの変更ということが不可欠でございますので、そういったことを推進するための仕組みづくり、あるいは大学、学都の持つ機能、知的資源を低炭素都市づくりに生かす、そのための取組といったことを強調しているものでございます。（２）の下線部につきましては、各々のゾーニングにつきまして、区域の定義をもう少し分かりやすくしたらどうかという庁内意見がありまして、それに基づきまして修正を加えたものでございます。

次の修正部分でございます。今回１３ページ、１４ページで区分図・構想図を入れてございます。１３ページの「土地利用・地域区分図」は、前回、中間案等で使用したものと同一のものでございます。こちらの都市計画マスタープラン等の改定作業を進めておりますけれども、こちらとの整合を図りまして同様の図面といたしております。１４ページでございます。中間案までは交通ネットワークということで、主にバス路線等をＪＲとの駅との結節を重視する、あるいは地域での循環バスといいますか、地域の足の確保、循環型の路線バス、また、そういったものでカバーしていくといった交通ネットワーク構想図のみを記載してございましたが、広域交流といったようなご意見が多数ございましたので、図３を入れてございます。１２月に間もなく開業いたします青森までの新幹線、これが北海道の方まで伸びてまいります。また、仙台を環状という形で、政令指定都市で初めて高速自動車道が３月に開通しておりますので、こういったもの、あるいは日本海側、秋田港を中心として東アジア、ロシアを秋田の方はにらんでおりますけれどもそこ

との連携、あるいは仙台港、非常にコンテナの扱い量が増えております仙台港の機能、こういったものを図面にしたものでございます。

続きまして15ページでございます。交流人口の拡大のところ、前回観光の関係で仙台の持つ温泉、あるいは食などの地域資源、あるいはおもてなしの心、ホスピタリティといったようなことも記載すべきだというご意見がございましたので、そういったことを（２）のところで強調いたしております。また、前回、地下鉄東西線沿線のシンボルゾーンについてお尋ねがあり、この辺が分かりにくいのかなと考えまして、その部分を16ページ「（４）都市軸形成・活用の重点地区」ということで、青葉山・国際センター駅地区、こちらの方、青葉山公園の整備でありますとか、仙台商業跡地の活用ということで、現在検討を進めるあるいは検討を始めるといった状況になってございますので、こちらの方に記載を移しまして分かりやすくしようということで記載を変更いたしました。また（３）のところで、都市間連携ということに記載しております。東北の各都市との連携、それを通じて東北全体の発展を牽引する^{けん}というか、支えていくために仙台市がどういったことをできるかということを考えなければいけないというふうに記載したものでございます。

17ページから「４つの経営方針」でございます。こちらからしばらく下線部が多くなってございます。これにつきましては、経営方針関係で市役所内部で市民意見等を受けながら協議してまいりました内容が固まってまいりましたので、こちらを詳しく書き込んだものでございます。

「市民力が発揮される参加と協働の基盤づくり」では、市政に関する情報発信と市民参画の充実といったことで、庁内での検討内容をお伝えいたしております。参加と協働を広げるために適切な情報の提供、あるいは基盤の整備が必要でございますので、そういったことについて記載をしたものでございます。「市民力の充実・拡大に向けた取り組みの推進」のところにつきましても、内部での整理がついて記載に至りました。今回記載いたしましたものは、こちら情報提供、活動拠点の確保、プラットホームの整備、サポートセンターを始めとする機能拡充、こういったことが中心でございます。また、若い世代の市民力の育成についても記載をいたしております。学都仙台コンソーシアムとの連携を強めるといったような形で、学都の持つ若者の力を市民力としていかに取り込んでいくかといったことについて詳しく記載をいたしております。また、前回、企業、企業市民力と言いますか、そういったものの重要性をもう少し記載すべきだというご意見ございましたので、18ページの「より多彩な市民力の拡大」のところで、企業従業員ボランティアの奨励等を記載いたしております。シニア世代あるいは大学との連携について、ここで再度記載しているものでございます。（３）の「市民力が発揮される新たな公共の推進」という形で、市民力を公共の活動領域にも生かしていただけるように、そのための仕組みづくりについて記載しているところでございます。

19ページから「２ 地域特性に応じたきめ細かな地域づくりの推進」でございます。こちらにつきましても、庁内での検討が進みまして、詳しく書き込みをいたしております。地域の交流連携促進、あるいは市民協働による地域活動の活性化、市民センター、コミュニティ・センターの機能の強化といったことを記載しているものでございます。

20ページでございます。地域政策を進める上で区役所の機能強化が必要ではないか、市役所の方ではどういったことができるのかといったようなご質問、ご意見を区民意見交換会等で多くいただいております。ここに対応すべく検討を重ねまして、まちづくりにおけます区役所の権限の拡充等、拠点機能を強化するといった内容、あるいは市民センター機能と区役所が一体となった地域支援体制の構築等について記載しております。

3番「地方の時代を先導する市役所への自己変革」でございます。これにつきましても、前回、箇条書だったところを詳しく記載し直しております。健全な財政運営に向けた取組、あるいは歳出の削減、歳入の向上に向けた取組、税源のかん養、こういったところご意見多かった部分について、詳しく記載をいたしております。次に22ページでございます。「創造的な都市経営力の発揮」ということでは、当然市役所側の職員の意識改革、また能力の拡充といったことも不可欠でございますので、この部分、現在人材育成計画の改定作業を進めておりますけれども、その中での検討と合わせまして書き込みを増やしているところでございます。また、市民力ということで、市民の皆様のご知恵や創意を生かす都市経営、そして、東北、都市圏の力を集め地域を牽引^{けん}するような、そういった意識を持つての都市経営、そういったことについて記載をいたしているところでございます。

23ページ「4 公共施設の経営改革」でございます。こちらにつきましては、新しい箱物整備ということがかなり難しい状況になってございますけれども、新規整備あるいは更新、維持・補修、そういった場合に適切にその実態をつかみながら、地域ニーズに勘案して転用でありますとか、ライフサイクルを伸ばす長寿命化、コストの軽減につながるようなコスト面について検討を重ねるというようなことで記載しているものでございます。

25ページからの「分野別計画」につきましては、前回と同様、今回も項目のみでございます。現在、教育振興基本計画でありますとか、都市計画マスタープラン、この基本計画の改定と時を同じくしまして様々な計画が、現在中間案の作成ということでパブリックコメントの段階に至っております。そちらとの整合を図りながら次回審議会までにこの部分の書き込みをいたしまして、お示しをしたいと考えているところでございます。

28ページから「区別計画」でございます。区別計画につきましても、詳細の部分、施策方針等につきましては分野別計画と同様に現在進んでおります市内での各種の計画、あるいは新年度予算等との整合をとりながら現在修正中でございますので、次回の審議会で全文をお示ししたいと思っております。各区の将来ビジョンにつきましては、区別意見交換会でのご意見等を中心に、各区と企画調整局で協議しながら修正を進め、加筆修正をしたものでございます。

「総合計画の推進」の部分でございます。こちらにつきましては前回の説明とほぼ同様でございます。基本計画におきまして目標を設定し、その具体的な指標等につきましては実施計画の中でそれを進行管理していくと。そこに市民参加の手法を加えていくといった内容で検討をしているところでございます。

資料については以上でございます。

大村虔一会長

どうもありがとうございます。

それでは、修正の方向につきまして、委員同士で意見交換を行ってまいりたいと思います。今回の資料1でございますが、皆様からいろいろご意見をいただきたいと思います。また、早い時期から質問等ございましたらどうぞお願いいたします。どなたからでも、いかがでしょうか。

どうぞ。

江成敬次郎委員

前回、指摘させていただいた副題の件については、説明が付いてだいぶ分かりやすくなったと感じました。

ちょっと質問ですが、この今の都市像の三つ目、「自然と調和し持続可能な潤いの都」と書いてあるのですが、11ページの「重点的な取り組み」は多分その都市像に対応しているんだろうと思うんですが、三番で「環境と調和した」という言葉になっているんですね。実は本文の中に「環境と調和した」という言葉と、「自然と調和」という言葉が使われているんですが、この辺は意識的に変えているんですか。

大村虔一会長

いかがでございましょうか。

梅内総合計画課長

「自然と調和する」といった記載につきましては、主にまず里山や森林保全地区といった部分、あるいは河川、水でそういったような部分で使っているつもりでございまして、「環境と調和した」という場合には、都市部での、何と言いますか、生活環境とかそういったものを意識したつもりなのですが、十分にそれができているかどうかというご指摘を受けると、ちょっと自信がないところもありまして、こちらの意図としてはそういう使い分けをしたつもりでございます。

江成敬次郎委員

私もざっと読んでそんなことなのかなとも思ったんですが、「環境と調和」という言い方だと非常に漠然としているという感じがしますので、私としては「自然と調和して」に統一された方がいいのではないかと私は感じております。もっと言うと、実は「生態系と調和した」という言葉も使いたいくらい、私は使いたいくらいなんですが、「環境と調和」というよりは、「自然と調和」という言葉の方がより良いのではないかなと思っております。

全体としても、26ページの分野別計画はこれからだということなんですが、そちらの方でも「自然と調和している」とか「自然と共生する」という言葉になっておるんで、もし使い分けるとしたらきちんと使い分けなければいけないだろうと思いますし、私としては「自然と調和し」という言葉で統一されたらどうかなと思っております。

大村虔一会長

ありがとうございます。
よろしゅうございますか。

山内企画調整局長

総合計画と併せて今環境基本計画の策定作業を進めておりまして、これについても中間案、中間的な取りまとめの後にご覧いただいて、最初のまとめの段階にあります。

議会におきましても、総合計画の基本構想、基本計画と、環境基本計画、それぞれが議決事項となっておりますので、今のご指摘も十分検討させていただきながら、やはり概念規定として明確に区分できるのかどうか、そういったことも視野に入れながら、その環境基本計画との整合もございますので、その辺も考慮しながら検討させていただきたいと思います。

大村虔一会長

他にいかがでございましょうか。
どうぞ。

柳井雅也委員

15ページの(1)の「産業間連携などにより資源・ノウハウという文章なんですが、ちょっと文章が分かりづらいと思ったんです。最後に農業の活性化と出てくるんですね。宮沢賢治のそういう人に私はなりたいたいみたいな感じで、実は僕ここ読んでいるときには産業全般の話かなと思って読んでいたんですよ。最後に農業が出てきて、えっと思ってもう一回読み直しをすることになってしまう。全部文脈をもう一回拾いながら読んでしまいました。例えば、産業間連携などにより資源・ノウハウを有効活用し、農業の振興を図り、そして付加価値の高い商品を生み出すことができるように支援しますとか、農業をもうちょっと前の方に持ってきた方がむしろ分かりやすいのではないですかね。内容については異存はないんですけども、もうちょっと書き方をということで。

大村虔一会長

事務局いかがでしょうか。ご提案でございます。
他にいかがでございましょうか。
どうぞ。

柳生聡子委員

二つございまして、9ページですけれども、第2章の2番の「地域で支え合う心豊かな社会づくり」の(2)についてです。子育て応援社会づくりの項目で、 から まで主に保育サービスの充実に関する記述があるんですけども、四つとも保育サービス、預けるところを増やすですとか、そういった内容になっているんですけども、もちろ

ん待機児童をゼロにするですとか、のびすくを増やしたりするというのは、とてもニーズの高い話で待ったなしなのでどんどんやってほしいところなんですけど、それだけだとちょっと一面的かなという気がしました。どんどん預けるところ、預けやすくなって、朝から晩まで子供を預けられるようになって、でも果たしてそれで子供も親も幸せなのかなと考えたときに、ちゃんと子育てする時間を確保できるような働き方ですとか、労働条件のようなもの、雇用する側の意識の醸成とか、そういった視点もこれから必要不可欠なのかなと思いますので、例えば企業側とか事業者側の市民が啓もうとか、そういった視点もあるといいのかなと思いました。一面的ではなくて、もっと様々な方向からの支え合いという点で記述があればいいかなと思いましたので、よろしくお願いします。

後もう一つ、非常に細かくて恐縮なんですけど、一番、「子どもたちへの多様な体験・遊びの場づくりなどを推進し」というのが、同じ10ページで加筆されていますけれども、ここは先週、一週間前は学童保育に関する内容が4、5行書かれていましたけれども、なくなっちゃったんですけれども、何か意図があったのでしょうか。

大村虔一会長

いかがでしょうか。

梅内総合計画課長

前段につきまして、両立支援を含めた企業といいますか、社会に向けた啓もうといったようなことも非常に重要なことだと思ってございます。それについてはどうするか内部でも検討させていただきます。

また 学童保育の部分の記載でございます。前回この部分に記載がございましたけれども、ご意見があって検討するうちに、第1の1の「(3)地域と共に育む子どもたちの学ぶ力」という部分で、「子どもたちの多様な学びや成長を支え、応援する地域環境づくりを進めます。」というところの。

柳生聡子委員

すみません、何ページになりますか。

梅内総合計画課長

すみません。8ページの学びに関するところなんですけれども、ちょっとこちらの方との記述の整理を行いまして、学びの支援と、子育てといいますか児童保育、その部分のところを切り分けて表記しようということで、今回 のところの修正だけに線が引かれるような形になっております。その部分、当然重要なことでございますので、地域全体でその部分も支えていきたいと考えているところでございます。

大村虔一会長

よろしゅうございますか。ご意見がありましたらどうぞ。

柳生聡子委員

この部分は、どちらかというより子育てというより子育ての部分なので。子供たちの多様な体験・遊びというのは学びに関することですね。自体は前の学びのところに持っていったりしてもいいのかなと思ひまして、その方がすっきりしていいのかなと思ひます。

梅内総合計画課長

その部分、ちょっと内部でも整理させていただきたいと思ひます。一応こちらの方としては、7ページから8ページ(3)に関するところ、こちらにつきまして小中学校での学校教育関係に関するものと、9ページからの子育て応援社会づくりのところ、近年大きな課題となっております保育といひますが、未就学児の対応といったことで、ある意味縦割りなんですけども、そういった形でちょっと整理しようと思ひまして切り分けておりますが、その辺の書き分けについてももう少し分かりやすくなるかもしれませんので整理してみたいと思ひます。

柳生聡子委員

よろしくお願ひします。

大村虔一会長

それではよろしくお願ひいたします。

他にいかがでございましょうか。

どうぞ。

水野紀子委員

今の子育てのところで、今一番重要なのは児童虐待からどういふふうに子供を救出するかという問題なんですけれど、大体児童虐待対応は国で181億円で、子供の今度の支援金が2兆円という、ほとんど直接一番大切なところにお金がいけないために被虐待児童を引き離すのも難しくて、子供たちと親と引き離しても6畳間に十何人で寝かされていて、一つのふとんに何人も寝ている、そんなところへ性虐待を受けた被害の子供たちも入っていると、子供が子供に加害をしてしまうという非常に悲惨な状態にあるんですけども、仙台市だけでもそういう問題について少し自覚的に取り組むというふうなことが書いてあるといいなと思ひたんですが、やっぱりみつけれなくて、子育て応援社会づくりのところになるのか、どこになるのか分からないのですが、どこかの被害にあった子供たちに対して、積極的に救済の手を伸ばすなんていうようなことをどこかに書いていただければと思ひます。

大村虔一会長

事務局の方いかがですか。何かございしますか。

山内企画調整局長

今のその辺、検討させていただきたいと思います。個別政策を、テーマについてのこの部分のこういった要素をとということでもあります。ちょっと分野別計画の中でその辺をすべからく全部盛り込む方向で今進めてはいるんですけども、そのうちこの「重点的な取り組み」でどこまで書くかというのはその辺、評価の分かれるところでございますので、今の点、今までにいただいた点も含めていろいろ検討させていただきます。

大村虔一会長

今のお話、子供が少ししか生まれていなくて、その生まれた子供に対する親の意識が、未熟だと言っていいのかどうか分かりませんが、そのためにいろいろな問題が生じている。それは、今世紀の人口が半減するような世紀の中で大切な子供をどう育てるかという意味でもとても意味があり、しかるべきところに、ちゃんと位置づけていただけたらいいと思いますけど、ご検討いただければと思います。

ありがとうございました。

他いかがでございましょうか。

どうぞ。

石川建治委員

二つご報告を。財政の関係です。21ページ3以降ですね。これまで余り財政についてこれくらい丁寧に書いてなかったので、非常に詳しいと思っておりますが、それはそれとしてあるんですけども、若干不足しているなと思う部分がありましたので、その件についていくつか話をしたいと思いますが。

これまでの市民説明、意見交換会等でも、財政、財源をどうするんだというのは非常に注目度が高くて、言わば市民の皆さんの将来への不安があるからこそ、その財源をどうするのという話が出ていると思っていたんです。それで、その不安を解消するあるいは払拭するために、ここのところで情報提供と説明責任とかについてどのようにするのかというのが、ちょっと欠けているような気がします。他の都市をみますと、できるだけ市民の皆さんに分かりやすく財政状況を説明しよう、それから将来の展望についてこういった考え方でやっていこうといった、その市の情報が丁寧に流されているところも結構あるので、できればもう既に仙台市のホームページなんかでも市民に公開していますけれども、当面の5年間の財政状況と財源不足等も含めてありますけれども、できればそういう情報提供をきちんと明文化した方がいいということと、財政に対する説明責任をすべきだと思いました。

その財政の観点からみると二点目は、32ページの2の「総合計画の実効性を確保する仕組み」というところなんですけれども、事業評価をどのようにするのかということも非常に問われておりますが、実は一つそういう事業評価をどうするのかということ、それからここでは毎年、毎年度市民の意識調査をして、その意識調査の結果等も踏まえて改めてまた評価をするんだよとなっているんですが、果たして毎年の規模、どの程度のことをイメージしてここに掲載しているのか。その調査する調査内容とかそれにかかる費

用とか、そういったもので毎年やってまた反映していくと。10年間のスパンの中で具体的には3年間ごとの実施計画があって、それでもその1年ごとにまたやっていくということの整合性というか、その辺の調査の度合いも含めてどの程度考えているのか。こんなにやる必要があるのかとちょっと思ったりもするんですよね。その辺の整理をした方がいいのではないかと思います。

大村虔一会長

今のご意見、ご質問的な部分もございますので、事務局いかがでしょうか。

山内企画調整局長

一点目の情報提供、説明責任については、常々言われることでございますので非常に大切だと考えておりまして、17ページの経営方針の、ここでは市民力の前提となるという位置づけで、1の(1)の の辺りに詳しく書いていますつもりでございます。やはり必要な情報を手に入れやすく、活用しやすくするようにという部分は、これは市全般の話でございまして、当然財政の問題についても分かりやすい形できちんと説明していくと、そういう分かりやすい情報提供を進んでするということで考えてございます。また、ここの二つ目の中でも、やはり政策の形成過程に多くの市民の創意を生かすという観点で、市民参画の仕組み自体を、単に仕組みがあればいいということではなくて、やっぱりテーマに応じた市民参画の仕組みにしていけないとそれらは生きていけないということで、その辺は単にパブコメすればいいかということをよく言われますので、その辺も見極めながらきちんやっていけるように、今後工夫をしていきたいと思っております。ですから、財政のところの特出しして書いてはならないところなんですけれども、当然委員のご指摘のとおり、財政面についても分かりやすい情報提供と説明責任を果たしていくつもりでございます。

二点目の推進の目標管理とその市民意識調査の関係でございすけれども、この市民意識調査につきましては、これまでもいろいろと実施計画の進行管理の中で取り入れている手法でございまして、これにつきましては地域ですとか年代ですとか、そういったところで科学的にちゃんと評価しうる程度の実数の母数で、毎年ちゃんとチェックできるような仕組みにしていきたいと。加えて、やはり成果指標の実績がどうなっているか、毎年毎年変わりますから、それと含めて基本計画の目標だけでは、成果指標というのはごく一部の部分しか指標としては成り立ち難いところもありますので、その定性的な部分で評価してもら場合もありますので、その辺はアンケートの中で評価するという部分も出てきます。そういったことも含めて、やっぱり総合的な評価ということにしていこうという考えでございまして、その結果を基に市民協働の手法でやっていくと。これがやはり市民とともに歩む総合計画の実効性確保の仕組みではないかと考えているところでございます。

大村虔一会長

よろしゅうございますか。

石川建治委員

すみません。実施計画の3年ごとにやるとなると、3年間取り組んだことについてのその評価があって、次の3年間でどうするのということになっていくんだらうというイメージをしているんですよね。そうすると、3年ごとの調査とか分析とか評価をやってということもありの、その他に毎年までやっていくのがあるのかと思っているんです。

それと、事業によっては1年でできあがるものもあれば、何年もかかるものもあるので、簡単に毎年毎年の評価の中で変わっていくと、仕上がったものが全く別のものになっていたということにもなりかねないのではないかとちょっと心配もあるのでね、その辺の整合性も含めて説明してもらおうとありがたいと。

山内企画調整局長

もう少し、この辺の具体の仕組みについては、さらに精査しているところでございますので、今のご質問にきちんと答えられるように、もう少しお待ちいただきたいと思えます。

大村虔一会長

よろしゅうございますか。

これ随分難しいですね。僕、前に宮城県の満足度調査からどうやってその整理をするかということをやったけれども、作業は膨大な割にはなかなかはっきり見えてこなくて大変なんですね。うまく工夫をしていただいて、本当に大切なことがしっかりつかまえられるやり方をご検討いただけるといいと思いますね。

山内企画調整局長

仙台市でも、いろいろ行政評価とかもやっていた経緯があるんですけども、やはり事務量が膨大な割にはなかなかそれが実効性があるかというところが疑問な点もあって、そのうちにとりやめになったこともありましたので、やはり余り膨大にならずに、きちっと評価できる仕組みは一体どういうものかという観点で、もう少し検討させていただきたいと思えます。

大村虔一会長

よろしくお願いいたします。

他にいかがでございましょうか。

どうぞ。

鈴木由美委員

すみません。今の点について蒸し返すようで申しわけないんですが。

今の仙台市の方で市民意識調査について各年度に実施ということの他に、市民協働の手法を取り入れてということでここにきちんと記載してあって、適切な評価・点検を市

の各年度の実施の他に市民協働の手法を取り入れて、毎年適切な評価・点検をしてその結果を分かりやすい形で公表というような形にここには記載してあるんですが。

仙台市の行う市民意識調査と市民協働の手法の調査の違いを、市民協働の手法を取り入れてそれをどのような形で市民のところにその結果を公表するというような、大雑把な目安というかお考えというか、その辺のところをちょっとお聞かせいただきたいです。

大村虔一会長

事務局お願いします。

梅内総合計画課長

この辺りにつきましては、中でも、先程来申し上げておりましたが、行政評価等の難しさと並んで、いろいろな意見があってこれといったものを今時点お示しできない部分もありますけれども、ここで想定しておりますのは、市民意識調査等を判断手法の一つにしてということが前提にございました。ですから、各種の成果指標の状況あるいはそのアンケートの結果等を踏まえて、そういうデータをそろえた上で市民協働の手法を取り入れた評価を行って、それを分かりやすい形で公表というのも、先程の財政状況の公表のところでもご意見がございましたけれども、私どもとしては当然マスコミを始め、ホームページあるいは市政だよりなどで公表していくんですけれども、なかなかそれでも伝わりにくいところもあって、どのように広く市民の皆様にお伝えするかというのも大変難しい課題でございます。

先程申し上げましたように、市民意識調査と市民協働の手法というのが同列にあるのではなくて、市民意識調査の結果も踏まえて市民協働手法で評価するといったことで、その二段階のものを考えているというのが今時点でお答えできる内容かなと思います。

大村虔一会長

いかがでしょうか。

鈴木由美委員

なかなかちょっと分かりにくい。分かりました、何というか後でまた、詳しい何かこういうものがあれば教えていただければと思います。

大村虔一会長

事務局のご健闘を祈ります。

足立委員、どうぞ。

足立千佳子委員

蒸し返すんですけれども、やっぱりそれなりの指標、指標みたいなものをちゃんとつくって3年ごとに見直すとか。お隣の県庁さんの方では、外部評価のやり方ですけれども、それぞれが事業についてすべて成果指標をつくってそこまでやれたとか、ここまで

はこういう形でできなかったというのを自己評価したものに対しても評価というやり方をしているんですね。さらに言えば、例えば同じ仙台市でも、他の個別の基本計画をつくっている課では成果指標を設定してやるという方針を出しているところもあるので、やはりどんなに膨大であろうとも振り返りってとっても大切なので、何とかがんばっていただきたいと。

回答は要りません。エールでございます。

大村虔一会長

どうもありがとうございます。

他に、どうぞ。

増田聡委員

今の話にも関係するんですけれども、20ページのところに、小学校区ごとの地域情報ファイルをつくりますというふうに書かれておりますが、データを集めるだけのデータ集めは余り意味がないと思いますけれども。今お話のあった成果指標とか地域のパフォーマンスとか、そういうのに使うものであるというふうに銘打って、この地域情報ファイルというものを集めて小学校区の整備状況を公表するとか、そういう立場に立つ意味は十分あるように思いますので、何がどういうデータを集めて公表するのがいいのかというのは大きな検討事項だと思いますが、ご検討いただければと思います。

大村虔一会長

これもエールの分類だと思いますが、何かございますか。

山内企画調整局長

これは、既に数年前からいろいろ基礎的な情報自体が不足しているという問題意識がございまして、やはり日常生活の基本であります小学校区レベルでいろいろな情報をまずは集めて、今それに基づいていろいろ課題とか、その辺を地域の方と共通認識の下にいろいろなまちづくりを進めていきたいということで作業はもう進めておりまして、それが区役所を中心に作業をしているんですけれども、その辺をさらに内容の充実に向けて、本庁も含めて組織横断的にそういった情報を広げていきたいという観点でございます。

今のご指摘には、成果指標に絡めてという部分についての問題意識については十分によく分かるところではございますけれども、まずはここでは地域における個別の情報を整備していくという観点での捉え方でございます。その辺はご了承いただきたいと思います。

増田聡委員

P D F の資料集があるのは期待しておりますが、年に1回いっぱいP D F ファイルが出てきても余り意味がない感じがしますので、せっかく集めるのであればどう使うか

ということを考えていただきたいと思います。そういうことです。

柳井雅也委員

ちょっとよろしいですか。

大村虔一会長

どうぞ。

柳井雅也委員

ただ、使うのは市民の立場とか、我々が使うということですので、そこまで僕は決めない方がいいと思います。例えば校區別にどのくらい老人人口がいて介護施設をつくりましょうという場合、我々の地理学の世界ではその重心をとって、その辺りに介護施設をつくると皆さんの移動距離が短くなるとか、そういうことはやっているんですね。

それはやっぱりあくまでもその使う立場によって多面的に活用できるわけですから、使い道までは特定しない方がいいのではないですか。

先生に対して質問なんですけれども、いかがでしょうか。

増田聡委員

どんなデータを集めるかによりますが、例えば人口だけで言えば各小学校区の人口分布のデータというのは一応あがっておりますが、でもPDFファイルの中に出て、紙になって出ているというよりは、もう少しダイナミックに将来が見通せるような形のデータになっていて、高齢化施策を推進するとか若い人たちの新たな流入を促進するとか、そういう話を多分東西線の沿線あたりはやると思いますので、そういうデータとどうリンクしているのかということが極めて重要ではないかと思います。

大村虔一会長

どうぞ。

柳井雅也委員

むしろそこまで言われるんでしたら、例えば統計局のようなGISを使ったデータで状況を設定してぱっとう図が出るような、そこまでやっていただきたいと思いますね。そこまでやれるのでしょうか。

大村虔一会長

どうぞ。

梅内総合計画課長

そこまでやれるかというのと、なかなかお答えできないところが弱いかなと思っておりますが、ここで記載しましたのは、その上のポツのところにございますけれども、地域

と行政などが対話や意見交換をしていくことがまずは重要で、その際にできるだけ詳細な地域に関する情報を地域の皆様にお届けすることが必要だという意識で書いているものでございます。

ですから、増田委員からご指摘ありましたけれども、データを集めるためだけのデータ集めでは意味がないというのは、まさにご指摘のとおりでございまして、ただ、柳井委員からも最初にご発言ありましたように、具体的にそれをその地域の成果指標として設定できるかどうかというのは、地域によってはそういうところが可能な部分もあるのかな、あるいはその施策においてはそういうところがあるのかなとも思いますが、一応ここでは全市という意味で書いておりますので、全市という意味では各区におきましてこういったものを整理し、いかにそれを地域の方に発信し、地域との意見交換をこれから強めていけるかといったところに力点を置いておるものでございます。そういった意味では、集めるためだけに集めるということにならないようにしていきたいと思っております。

大村虔一会長
どうぞ。

針生英一委員

今の部分に関連してなんですが、20ページの(2)ののところ、区役所が地域行政の第一線として中心的役割を果たすと、区役所と市民センターが一体となった地域支援体制を構築するというふうに明記をされておきまして、情報だとかニーズだとか課題だとかそういったものを整理して共有すると、そして、地域活動に対する情報提供・助言などの支援の充実を図るために、各区に地域連携担当をする職員を配置するというふうに書いてあるんですが、我々、地域の現場で活動をしていると、まず一つ困るのが、何と脈絡のない人事制度かなというところ。しょっちゅう顔なじみになったころに変わると。これはまち課の課長あたりからもいろいろとやっぱり不満というか、そういう話も聞いておるんですが、やっぱりその地域とのネットワークをつくっていくためにはそれなりの時間も必要だし、余りこころ変えられるとなかなか地域にやっと顔を覚えてもらった頃にいなくなると。役所は役所でそれなりの人事のサイクルということはあるんですが、地域からしてみるとやはりそれは非常にある意味では無駄ではないかと思うところも多々ありで、是非この辺は、もちろんいろいろな難しい部分もあると思いますし、どこまで書けるかという問題もありますけれども、人事政策との連携というか連動というか、そういったことを是非お考えいただけないかなと思います。

それともう一つですね、地域連携担当職員ですが、ここについてはある意味ではその専門性を持った外部の民間人の雇用ということも一つ考えてはいいのではないかなと思いますので、その辺もご検討いただければと思います。

大村虔一会長
ありがとうございます。

ついでに私も言わせていただくと、市民力を使っていろいろなことをやっていくのは基本のテーマであります。今の針生委員のお話のようなこともあるし、先程の増田委員と柳井委員の議論にあったようなことでも、行政サイドが情報を一方的に市民に流すというだけの図式ではなくて、最近はNPOなどが自分たちの目的のために随分いろいろなことを操作して、いろいろな情報を駆使して作業をしています。そういう作業をもう一回、市の方でうまく回収するなり、あるいはそういうものが集まる広場のようなところがあってそこに集めて、皆が見ることができるような、市民力を使って、行政外でやれる仕組みがつくれたらいいと思いました。これは思いつきですので、今の話を聞いていてご検討ください。

他にいかがでございましょうか。

佐竹久美子委員

はい。

大村虔一会長

どうぞ。

佐竹久美子委員

11ページの最後から12ページの最初の辺りの「地域再生に向けた取り組みの推進」というところなんですが、これは今後10年、地域の再生というのは非常に大きな課題になってくると思います。今現在、地域力の強いところ弱いところたくさんあるわけなんです、これ全体の中でいろいろなところで、それに対する取組みたいなのも読み取れるところもあるんですが、ここの中でみた場合ちょっと、仙台市でこれからの地域のまだら化というのが随分進んでいくと思います。それで都市軸から外れた高齢化が進む郊外型の住宅地に対してなど、何か斬新的な新しいまちづくりの取組というのが必要になってくるのかなと考えておりまして、その辺こう何かいい取組があれば盛り込んでほしいなと思っておるんですが。

大村虔一会長

事務局何かございましょうか。

山内企画調整局長

地域再生のテーマについては、やはり各区の地域懇談会なんかに行きますと必ず指摘されるテーマでございます。

やはりこの10年に向けて、郊外の住宅団地や丘陵の住宅団地とか、3、40年経過してだいぶ高齢化や人口減少が進んでいる地域が増えておりまして、それがさらに拡大するということでのいろいろな観点での懸念が現実化してくるという想定でございます。そういったことから、さっきの12ページにも記述がございますし、後20ページの地域づくりの中でも、先程、皆様方からご意見いただいた情報ファイルの下の辺りなんですけれど

も、中山間地における地域振興や鳥獣被害対策、丘陵住宅地における家屋や宅地の保全対策、これらの地域対策における生活保全、個別にいろいろなこういう具体の課題が出ていますので、それに的確に対応するために組織横断的な支援体制を充実し、地域とともに取組を進めると。これらが基本計画レベルではこの程度の記述させていただいていますが、個別具体にはどういった地域において具体的にどういうことをやっていけばいいかということを、今まさに全庁的に具体の対策づくりに向けて検討を深めているところでございます。

大村虔一会長

ありがとうございます。

他にいかがでございましょうか。どうぞ。

西大立目祥子委員

いくつかあるんですけれども、まず今の20ページの市民センターと区役所のところでちょっとお願いしたいのは、地域課題に対応するために市民センターと区役所が一体となってという体制をつくるというのはいいんですけれども、私は市民センターは市民力を育むための学びの拠点であるべきだと思うんですよね。そういうふうに考えると、区役所の下部組織にはしてほしくないという思いがあります。学びってやっぱり自由に、図書館と同じように市民がそこでものを考えたりつながったりしていくための場であって、ここが余りにも区のお知らせをうまく下に流すためのものにはしてほしくないなという思いがあるので、そこだけお願いをしておきたいです。

それから3ページなんですけれども、三つ目の都市像で「自然と調和し持続可能な潤いの都」とありまして、杜の都についてはこの中程の三つ目に「多様な生態系や潤いと恵みに満ちた」というのが出てくるんですけれども、その杜の都、風土、文化としての杜の都の継承というのを、その文の中に入れてあげたいなという思いがあります。多分杜の都という理念を深く掘って行って実現していけば、私は世界性を持ちうるものだと思うわけですよね。単に水と緑のネットワークだとかっていう低炭素型の都市だって言わないで、仙台が枕詞にこれだけ美しく、誰もが道筋深くして掘っている杜の都という言葉をやはりどこかに出していきたいなという思いです。

それから、その下の「東北を支え広く交流する活力の都」というところに、ようやく東北という言葉が入ってきたなというのをうれしく思っているんですけれども、ここでいうとなかなか東北を応援するというニュアンスが余りないように思えるんですね。産学とか都市機能を高次化して行って東北を応援するとかって、その四つ目のアジアとの連携の下にというふうにあるんですが、もう少し一次産業を念頭に置いて、東北で一番大きな都市である仙台が、特に町とか村とか、これから多分恐らく大変なことになっていく農山村にどう手助けをしていくかというようなニュアンスの項目を入れたいです。

後はもう一つ、11ページの土地利用のところの(2)の に市街地ゾーンというのがあって、市街地ゾーンに多分都心が入ってくると思うんですが、都心というのを単に都心の機能を集積して充実させて拡充するというだけではなくて、やはり都

心こそ仙台誕生の城下町の最も中心であって、歴史性がそこに深く根を下ろしているというか、もしここがヨーロッパだったら旧市街地ってすごく大事にされて単純な開発なんかできないはずなのに、そこをどんどんどん改変されてそれをよしとするというだけではなくて、もう少し別の視点をここに盛り込んでいただきたいなと思います。

大村虔一会長

ご意見であります、何か事務局の方でございましょうか。

山内企画調整局長

冒頭の市民センターについて、位置づけとして地域の学びの拠点であるということは変わるものではないと思っております。ただ、結びつきとして、区役所は区役所、市民センターは市民センターということでばらばらじゃなくて、やはり同じ地域を担うその組織機能として一体的にあるべきだというのは地域の皆様を始め、大勢の意見かなと受け止めておりまして、そういったことから一体的な形で運営をしていきたいという方向にしておるところでございます。その他の点につきましては、いろいろご意見として受け止めさせていただきたいと思います。

大村虔一会長

よろしゅうございますか。

他にいかでございましょうか。

どうぞ。

岡本あき子委員

私からも確認も含めてなんですが、1ページそれから後の方にも出ていたんですが、仙台の未来へという中で、「量」から「質」へ、「成熟社会」へという表現があって、これに対しては「量」から「質」という時代を更にもう超えているんじゃないかという指摘が前回あったと思うんですが、これに対して市としては、表現としてはこのままでいこうと考えていらっしゃるのかが、一点。

それから、今の項目のちょっと上に、「社会経済構造全体が急速な変革の過程にあります」という、ちょっと言葉のところからで申しわけないのですが、あるんですが、4ページになると(2)の で「社会構造改革に向けた」という表現になっているのと、5ページになると「社会経済全体の構造変革」という表現になって、後11ページの「社会経済システムへの転換」という表現なんですが、これらはそれぞれ意図があって使い分けをされているのか、もし特段それぞれの言葉の意味が明確に別がないのであれば、言葉を整理された方が分かりやすいのかなと思いました。

それと、ちょっと文章で分からなかったのは、4ページ、2の(2)の なんですけれども、「仙台市には、社会構造改革に向けた取り組みに地域の声を積極的に発信していく役割が期待される」という表現が、仙台市が発進していくように、ちょっと文章、主語述語でいくと、受け止められてしまう気がしたので、これは地域の声が、発信され

ることを仙台市はきちんと受け止めて反映させていくという意味なのかなと思ったんですけれども、説明が伝わりにくいかないと思いました。

後、 で、犯罪のところなんです、「凶悪化、巧妙化する犯罪」という表現があるのですが、この凶悪化というのは多分データでいくと、今は凶悪犯罪というのは減ってきている、確か件数としては減ってきている、私が間違っていたら申しわけないんですけど、巧妙化は確かに進んでいるんですが、凶悪という意味では確か減ってきていたような気がするので、後でそこを確認していただきたいなと思っています。

後、8ページ目に子供の関係で、「『生きる力』となる確かな学力や豊かな人間性、健やかな体を育む」と書いているんですが、是非これを「健やかな心と体」ということで心身共になるので、心の部分も今特に仙台市の子供たちにとっても大きな課題なので、是非心の健康づくりというか、この言葉として付け加えていただきたいと思います。

後は16ページになりますが、都市軸の形成で重点地区、これから東西線が整備されるというのは重々分かっています、特に東西線の力を期待というのも重々分かるんですが、都市軸といいますと東西線、南北線合わせて都市軸となっていますので、できれば南北線の広域拠点を項目として加えていただければなと思っています。

私からは以上です。

大村虔一会長

五つぐらいありましたっけ、いっぱいございましたが。

岡本あき子委員

ごめんなさい。言葉尻をとらえるようで申しわけなかったんですけど。

大村虔一会長

事務局の方で何かございますか。

山内企画調整局長

いろいろお話しいただいた点については、恐らく社会情勢の関係については、それぞれが厳密な定義をしているつもりではございませんので、その辺の文章表現については今後に向けていろいろ調整させていただきたいと思っています。

冒頭の「量」から「質」の部分について、確かにこの前いろいろご指摘いただきましたけれども、やはり今の時代が「質」の向上を重視して心豊かな生活を志向する社会に本格的に移行しているという認識でございまして、そういう社会を成熟社会というふうはこの総合計画においては定義づけたいということもございますので、その辺は前のままということにさせていただいています。

その他、言葉使いの点についてはちょっと、この文をよくお読みいただいて本当にありがたく思っておりまして、私どもの不十分な点を実感した点もございまして、その辺については直すべきところは直したいと思っています。

凶悪化、巧妙化の部分も、確かにデータ的にも私も凶悪犯罪は減っているというデー

タをみたこともございますので、ここら辺の表現も含めてどういうふうにするかは考えたいと思います。

大村虔一会長

よろしいですか。

岡本あき子委員

後、都市軸で南北線を。

大村虔一会長

16ページですね。

梅内総合計画課長

16ページの都市軸の部分、広域拠点との兼ね合いをどうするかということの点のご指摘でございます。私どもの検討といたしましては、重点政策の3のグランドデザインといいですか、そういったところで広域拠点、南北の広域拠点、長町地区、泉中央地区についても位置づけをしまして、広域、その背後に控えます都市圏も含めて広域的な拠点機能の整備というところは、そちらにうたっているところでございます。

4番の魅力と活力づくりにつきましては、もちろん広域拠点の重要性ということを否定するものではないんですけれども、今回東西線によって生まれます東西都市軸が、本市の非常に、何と言うか、ユニークな都市個性、学術研究ゾーンであるとか、卸町、六丁の目、また中心部の商店街、そして仙台駅、そして田園地区の荒井といったようなユニークな、かなり産業的にみて特徴のある部分を結んでおりますので、そういったところの連携によって新しい産業活力とか雇用の創出とかにつなげたり、東西線の開通ということにつなげたいというような、そういう産業政策へも生かしたいという思いで書いたものでございます。

南北線につきましても、これまで同様、重要性が変わるわけではございませんし、広域拠点の果たすべき役割というのは、11ページ、12ページの辺りで記載しているところなので、ちょっとその辺内部での産業経済との政策の関係で、少し意図的に書き分けているところがございます。

大村虔一会長

よろしゅうございますか。

よろしければ。

どうぞ。

柳井雅也委員

区別計画のところでもよろしいですか。

大村虔一会長
どうぞ。

柳井雅也委員

泉区の区別計画なんですけど、確か私が調べたデータでは、ちょっと二次データなので確実なことではないんですけども、今後急速に泉区は高齢者が増えてくんですね。多分恐らくこの五つの区の中では最も数的にも確実に増えていくはずなんです。

それで、実は介護施設関係と全国的に言う数千箇所必要だと言われていまして、今後25年間とかそういう段階だと思うんですが、恐らく仙台でも介護施設の不足というのが今後相当深刻化してくる可能性があります。泉区というのはそういった集中地域だという可能性が非常にあるんですね。

これで言いますと「高齢者がいきいきと暮らし」とあって、青葉区は全体がいきいきなんですけど、高齢者だけが泉区だけいきいきなんですけど、いきいき暮らせない人もたくさんいらっしゃると思うんですよ。その人たちの配慮も含めてこういう書き方でいったときに、本当にちゃんと泉区の政策としてあるいは施策としての的を射たスローガンになっているのかどうか、この辺り一応確認をしておきたいと思うんですね。

一応泉区というと、ショッピングセンターが来たり、自動車産業が張り付いて不動産関係が売っていたりとか、光のことだけ言われているんですけども、もうちょっとその影の部分にもきちんと配慮しておく必要があるんじゃないかと思って、こういう質問をさせていただきました。

大村虔一会長
何かございますか、事務局の方で。

梅内総合計画課長
事務局に区の方からもまいっておりますので、泉区の方から。

大村虔一会長
どうぞお願いします。

青柳泉区区民部長

ただ今ご指摘をいただきましたが、特に泉区において高齢化が急速に進行し、また、人口減少も早く訪れる推計になっていることは私どもも承知しているところでございます。

ただ、区民意見交換会に向けて各種団体からご意見をいただく中で、泉区の未来についてマイナス面だけを強調しないでほしいという意見も多々ございまして、このような表現をいたしましたものです。ご指摘のような「高齢者がいきいき」という部分につきましては、いろいろな高齢者問題への対応については分野別計画でも記載されているところでございまして、当然泉区としては対応していくつもりですが、そのマイナス面だけを

強調しないで、元気なお年寄りも元気でないお年寄りに対しても手を差し伸べると、そのような活動も一つの市民力の発揮であるという考え方で、このいきいきという表現をしたところでございます。

山内企画調整局長

今の補足させていただければ、高齢者自体が、この計画期間末には25パーセントを超えるという超高齢の時代を迎えるわけでございますけれども、仙台市全体としてもそういう高齢人口が増える中で介護を受けることのないように、それこそいきいきと暮らしていくということがやはり大きな目標としてはございますので、その高齢者がいきいきとという表現については、仙台市全体としても特におかしいとは思ってないところでございますので、その辺ご理解いただければと思います。

大村虔一会長

柳井先生よろしいですか。あんまりよろしくもないようなお顔なので。

柳井雅也委員

やっぱり弱者のことに対する配慮というのは、やっぱりどこかに入れておかないといけないのではないかというのが僕のスタンスです。

大村虔一会長

どうぞ。

岡本あき子委員

今の関連で、まさにそれ泉区に限った話ではなくて全体にも共通することだなと思って、私もちょっと気にはなっていました。

2ページ目に「支え合う健やかな共生の都」というのがあって、そのポツの二つ目、一つ目はその自立して生活をしましようにと、三つ目は能力を発揮しましようにと、比較的というかなんかなり前向きなところの中で、二つ目が唯一お互いに支え合って安心して、弱い立場の人でも安心して暮らせることにしましようにという表現なのかなと思っているんですけども。

全体を通して、全ての中を通じて「福祉」という言葉がないというのは何か仙台市で意図があるんですかというのをちょっと聞かれたんですね。その支え合うって、市民同士は支え合うけれども、要は行政は何もしないということの決意表明なのではないかと極端な見方をされている部分もあったので、ちょっと気にはなっていました。お互いに支え合うところがあって、当然行政も支援できるところはきちんと支援をして、弱い立場の人でも安心して、その居場所が地域なのか施設なのか、いろいろなサービスを利用しながらなのかという部分も、選択の中で安心できる社会をつくるということを、ちょっと表現をなんて整理したらいいのかは分からないんですけども、少しきちんと書いても。

全く柳井委員のご意見に賛同で、ただ泉区だけがそれがあるんじゃないかと仙台市としてやっぱりその視点があるよということは、どこかに書かれているといいのかなと思います。

大村虔一会長

ありがとうございます。どうぞ。

梅内総合計画課長

ご指摘の点、回答になるのかどうかというところあるんですが、例えば9ページをご覧いただければと思います。9ページのところ、「地域で支え合う心豊かな社会づくり」、重点政策でございます。少子高齢社会に向けてどういうふうに健康社会をつくっていくかというところ、(1)のところでございますが、例えばのところ、当然介護予防、元気に暮らせるという意味で介護予防を充実させるということを今やっております、同じ時期に仙台市独自の介護予防計画の策定作業も今進めてございます。

それとともに、ここには「多様な介護サービスを提供し」というところで、十分かどうかは分からないんですが、当然そうでなくなった場合に対応していくということも重要でございますので、この部分冒頭の枕の一番上でも「高齢者が住み慣れた地域でいきいきと暮らし続けることができ」というようなことで同様に重要なことと思っております。

ただ、先程泉区の方からも申し上げましたが、目標に書く場合に少しこれについては本当に多様な意見をいただくところで、やはり厳しい時代をはっきり書くべきではないかというご意見、あるいは計画段階であるので未来に希望を持てるように全体をつくるべきではないかというご意見がありまして、ここでも「いきいき健康社会づくり」というような(1)のタイトルを使っているというところございます。

また、岡本委員からもありましたように、当然、都市の方でも介護でありますとか、保育といったような障害者福祉、そういったようなところを当然重点的に取り組んでまいるとしてあるんですけれども、今回市民力ということを基軸にあげたということもありまして、支え合いですとか、そういったことをこれまでより強調しておりますので、これまでの計画ですと市側での高齢者福祉施設をどんどん建築しますというような計画になっていたかと思うんですが、財政的な問題が当然ございますけれども、そういった市民力を重視というようなことと相まって、今回そういう表現が少しトーンダウンしているのかなというところがあるかなと思って伺っております。

大村虔一会長

どうぞ。

内田幸雄委員

今日は余り話さずにと考えていたんですけど、今の柳井先生と岡本先生の意見だけ聞きながら思っていたことが出てきていたのでちょっとだけ。

そういう意味では先程の議論で出ておりました、20ページのところの各区に地域連携を担当する職員を配置しますという、ここの部分について非常に興味を持って見ていました。それは今出ていましたように、僕はPTAの立場で出ていますけれども、なりわいは社会福祉士という立場で仕事をしております、泉区の固有の名前は出しませんが、この1年半で特定高齢者、いわゆる要支援になる前のレベル、今は名前が変わって二次予防という言い方になりましたけれども、それをある地域包括センターは十分把握していないんです。明らかにそこは、予防プラン要支援1の人たちのプランも、その包括は150人ぐらいつくっていますから、二次予防の人たちは黙っていたってたくさんいるはずなのに、十分把握できていないというような状況も現に発生しているわけですね。それはそういう意味では、泉区に限ったことではなくて、仙台市内全体に対して言えることだろうと思いますし、今の今日この会議の前4時から6時まで県の方で宮城県高齢者権利養護推進委員会というのがありました。それは主に高齢者の虐待に対する話を中心に、仙台市の個別のデータなんかもある県からいただいていますけれども、高齢者虐待というのも決して仙台市の市内でも少なくない状況です。

ですから、PTAという立場から言わせていただくと、PTAの家族、親と子供と、保護者と子供というのは基本的に思いっきり地域の住民なわけですね。ところが例えばPTA活動全体をみていますと、学校の中のことだけで終わってしまっていて、なかった地域にまで広がっていない活動ってたくさんありますし、学校単位での地域にはないけれども、ある部分だけみると非常にもう子供の把握もなかなかしづらい、ひいては高齢者の様々な情報も把握しづらいなんていう、こう細かいミクロの話をし出すとキリがないところがいっぱいあると思っています。

今回のこの市民力というところの話を、脚光を浴びる非常に良い市民力がいっぱい出ているところの話はすごく良く聞こえるんですけれども、この市民力の発揮がなかなかされづらい、本当にミクロの話かもしれないけれどもそういったものも随分ある中で、この地域連携を担当する職員が区役所に配置されるということは非常にある種の期待を持って読ませていただいたところなんです。そういう意味で、まち課に入るのかどこに入るのかというよりは、子供から大人まで縦割りにならないポジションってどういうところにどういうふう to こういう人が入ってくれるのかな。子供のことはあっちに行って聞いてくれないと分からない、高齢者のことはこっちに行かないと分からない、ハード上はこっち行かないと分からないということではなくて、なんか地域連携課ではないですけれども、ここに行けばとりあえず先程の地域ファイルが何かを含めて、地域のいろいろなことがみんな分かってくれるような形で配置していただけたらすごくいいなというふうに思っているところです。感想のような、期待のような思いですみません。

大村虔一会長

ありがとうございます。事務局の方どうぞ。

大槻企画調整局次長

今の市民力の発揮というようなことをいただきましたけれども、まさに市民力という

のは全ての地域で、地域が一番の土俵になるところだと思っております、この市役所では各部局というのはやはり縦割りのところが相当ありまして、逆にそこが地域に入ったときに弱点をさらけ出したりすることもよくあるんです。

区役所は地域とやはり直接つながっております、横割りの派数を一番持っているところであり、また、地域の実情を把握できるところでもあります。そういう意味では予算を持つ、持たないというよりもコーディネーターとして、住民の方々と意見を交換しながら各部局を動かして課題を解決していくという役割が期待されるところでございまして、コーディネーターにもそのような役割を今考えておるところでございまして、それでコーディネーターが今どのような機能を具体的に持つべきかということにつきましましては、市民局や企画調整局と一緒に検討しているところでございまして、ご意見が反映されるようにいたしたいと思っております。

内田幸雄委員

是非よろしく願いしたいと思ひますし、この10年で地域包括支援センターなんかできて少しは変わってきたところですけども、介護保険制度が始まった10年前、措置から契約へといったとたんに、区役所が地区地区の高齢者の状況把握が全くできなくなりましたもんね。そういう意味では区役所には我々が行っても、どこにどういふ高齢者がどのぐらいいるのかというのが、小学校区単位なんかも含めて全然ニーズの把握ができなかった。

措置時代にはとりあえず特養の申込みを区役所にしていたので、住民把握がかなりきちっとできていたことが全くできない。ところが地域包括ができてきて少しできるようになったとはいえ、その包括が区役所に報告するために情報を集めているみたいなところがあつたりして、うまくその辺のところを連携していただきながら、子供のこともその部署に行けば分かるような、ちょっと贅沢な話かもしれませんが配置していただけたらと。よろしくお祈ひします。

大村虔一会長

ありがとうございます。

ここまで大体1時間半お時間をいただき、議論をしてきましたが、まだご発言のない方が何人かおられますので、最初にその方からご意見をいただきたいと思います。恒例でございすが、こちら側からいって最初は、大草委員まだご発言ないですね。何かございしました。

大草芳江委員

自分は感想と言ひますが、今日の皆さんの議論をずっと聞いていて、「市民力」というキーワードの光と影について、自分が感じたことについて少しお話ししたいと思います。これまで自分は「市民力」というキーワードの、どちらかと言えば光の部分、ポジティブな面にずっと意識をまわしてきたわけですが、それと同時に影の部分、ネガティブな面が実際にどのような意味を持っているのかも、きちんと基本構想や基本計画の中で、市民に対して適切に

伝わるよう示すべきではないかと思いました。

例えば、先程も「あまり不安をあおっても仕方がないのではないか」といった意見がありましたし、それはそうだとも思うのですが、やはり10年後になってから、え、こんな意味で言っているとは思わなかった、だったら最初からそう言ってくれば良かったのに、というふうになったら自分はすごく嫌だなと思うのです。選択と集中、負担の再分配というのが現実の姿なのであれば、やはり総合計画の中で、そのような現状を仙台市としてどのように認識した上で、例えば「市民力」というキーワードを出しているんだという表現が、文章構造の中に表れている必要があると思います。

その上で、もちろん光の側面、皆さんが夢とおっしゃっているような部分、つまり、どのようにして仙台市はこれから厳しい状況を生き抜いていくのかといった将来像を示すべきだと思います。つまり、「市民力」の光と影の部分、その両面がきちんと市民に対して伝わるようにしてもらいたいというのが、自分が感じたところです。

以上です。

大村虔一会長

ありがとうございます。

小野田委員もこの間もずっと時間を掛けて全部読んでから、大変長いご発言ございましたが、今回は。

小野田泰明委員

岡本先生にずっと言おうとしていた話を聞いていただいたので、もう言うことはありませんけれども。

少しだけ質問をしたいのですが、区別計画の中で市民参画とか市民協働とかそれぞれ言葉が、29ページ以降ですけれども、青葉区は「市民参画のまち」、宮城野区は「市民協働の」、若林区も「市民協働」、太白区は「市民主体」、泉区は「市民主体」となっていますけれども、これは何か違いがあるのでしょうかというのがまず一点目。

また、今内田委員からもお話がありましたけれども、全くすごく重要なご指摘だと思うんです。今までは要するに啓もうという仕組み、啓もうしてこれからは高齢化社会だから皆でがんばりましょうというような話だけど、これからこの総合計画でどういう仕組みをつくっていくか、システムをどうつくるかということがやっぱり大事で、それには先程次長もおっしゃったように、区役所と本庁をどうつなぐかというのが多分大事です。でも、予算を持っていないからそれをどう反映させるかということはあるんですが。そういう意味では、各区が総合計画を受けて一体どういうふうに主体的に動こうとしているのかが見えないとおかしいのですが、そこら辺はどうなのでしょう。ここは少し厳しめに聞きたいというのが一点。

後は7ページですけど、市長がおっしゃっているミュージアムシティの話で、1の(1)「楽しみながら学び豊かな時を過ごすことができるミュージアム都市の推進」ですけれども、学びのことについてはすごくたくさん書いてあるからもう十分なんですけど、例えばとかの、要するに都市の個性とか競争力とかデザインに関わるような話

がどう実際に政策に反映されるのかという視点でみると、ほとんどなかなか見出しにくいんです。だから、そこら辺も多分両輪だと思うんです。一生懸命学ぶということも大事だけど、やはり質が高くて本当に誇りになるようなコンテンツで学ばないと意味がないから、そこら辺がどう政策に反映されているのかということを少し教えていただけますか。

大村虔一会長

いかがですか。

どうぞ。

梅内総合計画課長

まず区別計画の方でどの区も、この部分は区民意見交換会等の意見を踏まえまして統一したところなんですけれども、まだ中間案の段階では将来ビジョンのところの丸の部分、どのようなまちを目指すかという将来ビジョンという部分の数なり内容なりについてちょっとばらつきがありましたので、これについてご意見を踏まえて、もちろんその区の事情が違いますので、そういったところで統一した部分で、各々の四つのビジョンにしたところでございます。

その下のところに、小野田委員からご指摘ありました市民参画でありますとか、市民協働、市民主体といった形で違う表現で入っておりまして、これにつきましては内部でも意見があったところではあるんですが、目指しているところは同じでございます。ただ、その下の部分が今表現としてないんですけれども、この下の部分の施策の方向性あるいは各地域での施策の推進の方向、そういったものを書いていく上でその区なりの文体といいいますか、それに合わせたときにちょっとこの部分の表記に違いがありまして、参画はこうだけど協働はこうだというような大きな違いというよりは、これも区民の皆様と一緒に地域課題を解決していこうという姿勢については同じなんですけれども、その下の部分の書き分けと一緒にちょっと表記が異なっております。この部分、次回下の文章等もお示ししてまいりますので、その際全体として見た上でまたご意見をいただければと思っているところでございます。

また、学び、ミュージアムの関係でございます。そのコンテンツ、質の高いコンテンツを備えるべきというようなご指摘はそのとおりだと思っております。こちらとしてもそれをどのようにつくっていくか、あるいはデザインも含めてどういうものを出していくかというのが課題だと思っておりますが、それについてはっきりこの場でこうだと言えるものまでまだ熟度が上がっていないというのが実態でございます。こういったことを目指してこれからどういうことをやっていくかということも、実施計画との策定と合わせて即時に検討する必要があると思っております。今段階ではちょっとこういった回答になってしまいます。申しわけありません。

大村虔一会長

よろしいですか。

小野田泰明委員

例えば、23ページの「公共施設の経営改革」というところなのですが、これには施設はもうお荷物になっているので、どうリストラするかというのがずっと書いてあるんですけども、そうではなくてめりはりが大事で、例えば（１）の に、重要なものについては市民参加型、公募型のデザイン等をうまく取り込んで先駆的に対応するとともに、重要度についてクエスチョンが付くものについては勇気を持って判断するなど、めりはりのある整備を目指していくとか、そう書いてくれるとうれしいなと思います。

同じくめりはりがやはり大事で、17ページの、先程からも出ている二次予防の話もありますけれども、確かに大事な情報はなかなか知りえないというのがありますけど、一方ですごく多すぎるんです。もう圧倒的で皆が疲れてしまう、本当にどこにどの情報があってどうなのと。大事なのは情報を整理して集約していくことです。こうやって総合計画に書いてしまうと何でもかんでも情報提供しないといけなくなります。先程会長からもアンケートをしてもその後の処理が大変で、きちんと公開もしないといけないというお話もありましたが、そのとおりで情報を集約して分かりやすい形でそれを伝えていく、そういうふうに減らすことも実は考えた方がいいです。

施設もそうですけれども、何でもかんでもやることではなくて、それなりのめりはりを付けます、めりはりを付けるためには市民と一緒に考える、かつ、市民と一緒に考えるだけではなくて非常に優れた専門家と協働するという辺りをきちんと総合計画に含まれるべきと思いました。

以上です。

大村虔一会長

ありがとうございます。

それでは、こちらの列はもう一通りご発言いただいたので、こちらは庭野委員いかがでございましょうか。

庭野賀津子委員

これまでの議論、意見が反映されてだいぶすっきりしてきてよろしいのではないかなというふうに思います。

ちょっと一点気になりますのは、前回少しミュージアム都市についてお話をさせていただいたわけですけど、7ページのミュージアム都市というのは言葉の響きとしてはとってもいいと思いますし、市長さんもずっとおっしゃってきているわけですけども、学びとミュージアムをここでは結び付けて、そして学びの資源の発掘とか、学ぶことができる、都市全体が学びのミュージアムというか、非常に学びを強調されている印象なんですけれども。ミュージアムの目的というのは必ずしも学びだけではないと思うんです。文化の果たす役割というのは必ずしも学びではなく、もっと豊かにするという方を強調した表現があってもいいのかなと思いますし、また仙台が言っているミュージアム都市というのは何なのかがもう少し明確に見えてくるといいのかなと思っています。

後、文化としては、文化政策を考える上では音楽も非常に重要だと思うんですが、このミュージアム都市の中にも音楽も含めて考えるというか、一般にミュージアムというと、美術館、博物館、動物園といったようなところだと思いますので、その辺、音楽を含めた舞台、芸術等も含まれているというのが分かるようなところがあるといいと思いました。

大村虔一会長

どうもありがとうございます。

それでは間庭委員は大丈夫でございますか、すみません。

間庭洋委員

特に意見ございません。

審議会や起草委員会でのご議論、市民の声、よくこういった形でまとめていただいたことに感謝をし、意見を終わりたいと思います。ありがとうございます。

大村虔一会長

ありがとうございます。

大体これで一通りなんですけど、今日どうしても言っておいた方がいいことがありましたらばお受けいたしますので、いかがでございましょうか。

針生英一委員

一つだけすみません。

大村虔一会長

どうぞ。

針生英一委員

３ページ目の丸の二つ目の「東北を支え広く交流する活力の都」というところで、その二番目なんですけれども、「産学官の連携により」というふうに書いてありますけれども、後のいろいろなくだりとうまく整合性をとるために、産学官の他に民という、市民も入れた方がいいかなって。ここでは産業というふうに定義づけていますけれども、コミュニティビジネスとかソーシャルビジネスを考えると、やっぱり市民サービス事業みたいなこともイメージとしては入れていただいて、セクターを越えた連携というのを産学官民という形で表した方がいいかなと感じました。

以上です。

大村虔一会長

事務局の方でご検討ください。

どうぞ。

柳井雅也委員

よろしいですか。二つあります。

一つは、どこっていうわけではないのですが、学都仙台ということで学生の力を非常に評価してくるというのがあったと思うんですね。実はこれずっと読んでいくと、学びのところでは学生が出てくるんですが、それ以降となるとほとんど学生を探すのが難しく。例えば、我が大学では来年からボランティアセンターというのをつくるんです。これは大きな目標としてはいわゆる社会的な、そういった対象的に恵まれない方を救済するという目的と、後もう一つは、商店街とか地域づくりを応援していこうということで、ボランティアセンターをつくらうという話をしております。もしもこういったことが、例えば総合計画の中に学生の力という形で入れていただけると非常に運営しやすいというのが私の意見で、恐らく他の大学でも似たような状況というのが、これから間違いなく起こるでしょう。これボランティアセンターって実は全国的な傾向で、むしろ東北地方というは遅れているというのがありますので、少しそういったところをもうちょっと意識的に盛り込んで、将来の連携の可能性をこういったところでこう認知しているという作業をやったらいいいと思います。これ一点ですね。

二点目は、また蒸し返して申しわけないんですけど、世の中が縮小していったり影になってきたときに、ネガティブなベクトルでみていくと非常にネガティブになっていくんですけども、実はそこにこそ解決のチャンスがあったり、後あるいはビジネスで言いますと産業のチャンスがあるんですね。例えばこういった高齢者社会を皆だめだって言うんですけども、必ずそれがだめだっていうことをビジネスにするような介護福祉サービスというのがありますよね。そういったものの機械器具をつくってしまうとかいろいろチャンスがあるので、意外とその一面的に評価してやっていたところに本当に新しい、未来があるのかというのは、やっぱり否定することは疑問があって、やっぱり両者を踏まえてきちっとやっていくということで。そのトーンは当然お任せしたいと思うんですけども、どこか一文はちゃんとふれておくということは大事ではないかなという感じがいたします。これは僕の意見です。

大村虔一会長

ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

もしなければ、私からも簡単にいくつか申し上げたいと思います。

先程の泉区の高齢化の話で気づいたわけですが、人口減少社会ではその地域年齢構成がどうかは相当大的なテーマです。今までは、人がどこに住むかは人の選択が中心だったけど、年をとった人ばかりの地域はなかなか運営が大変です。若者がそこにどんな形で住めるか、計画的な人口の配置の検討が必要かもしれない。つまり、持家政策をベースでやっているときにはそういう話はないわけですけど、借家がベースだとそういうこともできる。学都などと言って、東北地方だけではなくて全国から若い人を集めているわけですね。東北6県の将来予測のグラフなどをみると、仙台市が6県の中

の十三・四パーセントぐらいを占めているということは、恐らく20とか25ぐらいの若者の数というのは東北の中のかなりのシェアが仙台にいるという状況になるわけです。

それを東北にどう返していくのかが大きなテーマになるわけですが、学生たちを仙台でうまく受け止めて、そして、地域のためにもなってもらうのを、行政と民間不動産事業者や地域などが連携して、学生寮を少し通学しやすい便のいいところに配置するなど、何か計画的な配慮を何か考えないといかんのではないかなという感じをしています。総体的にみると減るのは仕方がないけど、先程の柳井先生のお話ではないけど、考えるといういろいろな知恵が多分あり面白くなると思います。下手すると仙台に学生が集まらなくなるかもしれないわけです。そのときに仙台は勉強するのにとてもいいというような話があれば魅力が増すと思います。そんな工夫をするのはどうだろうかと思いが付きました。

それから、区別計画との関係ですが、多分今のところは各区がこういうことをやろうと思っつつくられているものだと思いますが、市の全体計画で市の全体の柱立ての中から、いわゆる学都と学びの都としての泉区はどういう役割を持った方がいいのか、若林区とか宮城野区はどういう役割を持った方がいいのかというようなことについて、市側からお願いする声があって、区側とのやり取りがもっとあってもいいんじゃないかと思います。そうすると、市が全体的に立てた目標は、各区にどう分散していくのかもイメージできて、もう少し具体化してくると思いましたが、そうすると、例えば学びはいわゆる大学で学ぶみたいな話だけではなくて、その若林なら若林の農業をやっている人から学ぶことだってあるので、もっと幅広い学びになると思いました。

これは皆さんのご発言を聞いていて気づいたことで、特別なお答えは必要といたしません。よろしくご検討ください。

(2) その他

大村虔一会長

大体もう2時間近くになったんですが、今日はこの辺でよろしゅうございますか。

その他というのがございますが、これは何かございますか。

事務局の方ございますか。

梅内総合計画課長

こちらからはございません。

本日いただきましたご意見あるいはこの修正概要につきましては議会にもご報告しまして、12月議会でもご議論いただければと思っております。そういった審議会のご意見も含めて、今分野別計画を庁内で修正をかけておりますので、区別計画の細かい点も合わせまして、本日のご意見、審議会でのご意見を反映させて、12月末の次回の審議会でお出しできればと思っております。

本日は、本当に1週間ばかりの短い間にお集まりいただき、ご意見をいただきまして本当にありがとうございました。

事務局から以上でございます。

大村虔一会長

委員の皆様方から何もなければ、これで終了したいと思いますが、よろしゅうございますか。

小野田泰明委員

12月の審議会は、どういうふうに。

大村虔一会長

事務局それは何かありますか、12月の審議会。

梅内総合計画課長

今回は具体的に修正の全体の半分の素案をお出ししたいと。もう最終に向かって残り僅かになっておりますので、最終の全文についてお示しして、ご意見をいただければと思っております。

年末でございまして、ご苦労もあるかと思っておりますので、データでのやり取りを含めまして、ご意見をいただきながら最終案に向けて取りまとめていきたいと思っております。

小野田泰明委員

12月が最後ですか。

梅内総合計画課長

1月が最終と考えています。2月議会に提案したいというこちらの事情もございまして。

大村虔一会長

委員の方も大変だけれども、これ書いている人たちはもっと大変だろうと思って心配しているんですが。1週間の間で随分ご苦労様でございました。

小野田泰明委員

よく直っていて、すごくありがたいと思います。

もう少しだけ先駆的な仕組みについて取り組んだ方が。北九州はここから行くのが非常に厳しい都市ですけど、行政はすごいですよ。相当いろいろなプロジェクトで、ビジネスマンにかなり近い感じがします。仙台の気風に合わないのかもしれませんが、少しはそういうふうに入れていただけるといいのではないのでしょうか。

3 閉会

大村虔一会長

ありがとうございます。

それでは本日はこれで終了いたします。

どうもありがとうございました。